

一般演題は20題、特別講演2題、シンポジウム、ランチオンセミナーで構成しました。特別講演は「組織やチームづくりで機能するコミュニケーション」北田雅子先生(札幌学院大学人文学部こども発達学科教授)、「変革の時代の人材マネジメント」東瀬 多美夫先生(一般財団法人竹田健康財団法人事務局事務局長)から、ランチオンセミナーは「スマート医療機器による医療DXの実現」山下芳範先生(福井大学医学部附属病院医療情報部副部長/准教授)からご講演をいただきました。シンポジウムは「診療報酬改定2022が示した今後の地域医療～効率化・集約・組織マネジメント」のテーマで、基調講演を旭川赤十字病院院長 牧野憲一先生、討論は4名の先生方に参加をしていただきました。

開催するにあたり、ご支援とご協力をいただきました関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。

第15回三重県支部学術集会

学術集会会長：済生会松阪総合病院院長 清水敦哉

2022年10月15日(土) 国立病院機構 三重中央医療センター 研修棟会議室において、第15回日本医療マネジメント学会三重県



会場風景

支部学術集会を開催いたしました。新型コロナウイルスによる影響で一昨年は延期、昨年は特別講演のみのWeb開催でした。今回も新型コロナウイルスの感染状況によりましては開催がどうなるか心配されましたが、学術集会のプログラムをコンパクトに工夫し感染対策を講じ、3年ぶりに集会形式での学術集会を開催することができました。

テーマを「タスクシフトの取り組み」とし、72名の方にご参加いただきました。

一般演題は9題あり、日々の業務の中での気づきをもとに業務改善と創意工夫、多職種協働での取り組み、病院内の各部門に於けるタスクシフトの取り組みについて発表がなされました。特別講演では、大阪の若草第一病院 院長の山中英治先生にお越しいただき「役割分担が救う日本の医療」と題してご講演いただきました。ユーモアを交え大変興味深いお話を賜り、盛会の

うちに終わることができました。

最後に、開催にあたりご支援とご協力を頂きました関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。

第21回栃木支部学術集会

学術集会会長：芳賀赤十字病院院長 本多正徳

新型コロナウイルス感染症の収束が見いだせない最中ではありましたが、2022年10月22日(土)芳賀赤十字病院ハートクロスホールにて、第21回栃木支部学術集会を開催し104名の参加をいただきました。

団塊の世代が75歳を迎える2025年がすぐ目の前に迫り、高齢化社会の到来に向けた地域医療構想など様々な医療提供体制整備が行われています。2040年には団塊ジュニア世代が65歳以上となり、高齢化人口がピークを迎えます。この所謂2040年問題では、少子高齢化がさらに深刻になり、労働人口の激減による労働力不足に加え、年金や医療費などの社会保障費の増加も予想されております。それを見据え、地域医療提供体制について議論しておくことが非常に重要と考え、本学術集会のテーマは「2040年を見据えたこれからの地域医療～その人らしく生きるを支える～」としました。

最後に、本学術集会開催にあたりご協力をいただきました皆様にご深く感謝申し上げます。

第27回岡山県支部学術集会

学術集会会長：倉敷中央病院院長 山形 専

2022年10月22日(土)に倉敷中央病院附属予防医療プラザを会場として「新しい連携のカタチ～地域医療エコシステムの実現に向けて～」をテーマに開催しました。



会場風景

基調講演では倉敷中央病院院長 山形 専先生より「これからの新しい医療連携体制への取り組み～地域医療エコシステムの構築に向けて～」と題したご講演、特別講演では地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 理事長の栗谷義樹先生より「地域医療連携推進法人・日本海ヘルスケアネット～設立背景と事業、今後の課題」、厚生労働省医政局地域医療計画課 外来・在宅医療